

第5回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年5月16日(月) 16:00 - 18:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、山崎委員

(2) 政府側(宇宙開発戦略推進事務局)

佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官

(3) 説明者等

東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻 杉田教授

東京大学大学院工学系研究科 中須賀教授

JAXA 宇宙科学研究所 常田所長

JAXA 宇宙科学研究所 久保田教授

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査における人材育成について

資料1、2に基づき、杉田教授、常田所長から当該分野の人材育成について説明を行った。これらの説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、 : 回答)

超小型衛星のプロジェクトを高頻度で行う取組は、人材育成の観点で重要である。このような取組をオールジャパンに展開していくことが大切であり、その方策について将来的に検討していくべきである。

人材育成を行うには拠点を長期間維持し、ノウハウや技術力を蓄積することが大切である。その方策について今後検討していただきたい。

衛星システムが複雑化しており、プロジェクトマネージャー(以下、PM)だけでプロジェクトを支えきれない部分も出ているのではないかと。PMが果たす役割について改めて検討するとともに、ISASだけでなくJAXA全体として必要な人材を育てていくことが大切である。

超小型衛星のプロジェクトは技術実証の機会の確保が重要であるが、相乗りによる打ち上げだけで十分確保されるのか。

プロキオン等、過去の実績を踏まえれば2年に1回の頻度は実現不可能ではないと考えている。一方、静止軌道からのキックモーターの活用や地上での実証等、様々な手段を組み合わせることで実証機会を作っていく。

(2) X線天文衛星「ひとみ」について

資料3に基づき、常田所長、久保田教授からX線天文衛星「ひとみ」について説明を行った。これらの説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等)

コマンド設定時等にチェック機構があるはずだが、実態はどうだったのか。チェック機構は存在するが、十分ではなかったと考えている。今後、背景要因詳細な検討を行っていく。

推定メカニズムとして不適切なスラスト制御パラメータが原因として考えられるとのことだが、パラメータそのものの内容の問題なのか、パラメータを送る際の運用上の問題なのか、現時点でどのように考えているのか。

送信したパラメータの内容に問題があったと考えている。

今後の議論の進め方については、原因究明が進展した時点で文部科学省から報告していただきたい。

以上